

はだしのゲンが伝えたかったこと

1945年(昭和20年)8月6日、国民学校の1年生だった中沢さんは、原爆投下直後に見た広島
の光景を、今でも鮮明に記憶しています。原爆が炸裂した時のこと、逃げる途中で目にした、傷つ
いた人々や街の様子。母から聞いた、父や姉そして弟の最期のこと…。



「はだしのゲンは僕自身、
中沢啓治がゲンなんです。
そのゲンが語る当時のことを
是非次の世代の子どもたちに、

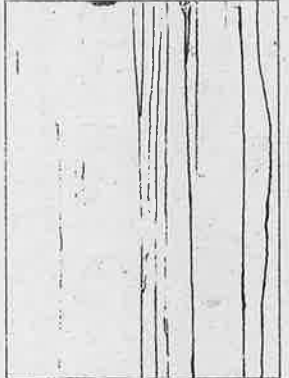
① 見た中沢さんは、ヒロシマに変わった町を
見て、どう感じたのでしょうか。

② ようやく見つけた母から、父や姉、弟の最期の様子を、聞いて中沢
さんは、どういう気持ちになったと思いますか。

③ 中沢さん(はだしのゲン)が、あなたにも「伝えたかったこと」とは、
どんなことだと思いますか。

3年 組 番

〈黒い雨〉
爆発の影響で生成された放射性物質が、煤(すす)や埃とともに舞い上がり、これらの物質を含んだ雨が広範囲に降り注いだ。その雨によって、放射線の影響は遠隔地まで及ぶことになった。この雨は、煤を含んで黒かったため「黒い雨」と呼ばれている。



〈黒い雨の痕が残った壁〉
爆心地から3.7キロメートル
広島平和記念資料館所蔵/八島秋次郎氏寄贈